

令和5年度 第2回長門市介護人材確保協議会 議事録

1 日 時 令和5年10月17日（火曜日）13時30分～15時30分

2 場 所 長門市役所 4階会議室2

3 出席者 別添委員名簿のとおり

4 議 事

（1）介護分野における奨学金返還補助制度について

<委員>

・介護職は、30代から40代に他の業種で働いていた方が、新しく福祉の仕事に就かれることが多い。また、学校を卒業して介護事業所に就職した場合は、奨学金の返済が免除されるといった他制度があるため、本補助制度の対象者は少ない。

・県内で同様の補助制度を実施している市は少ないので、周知という面で、事業所のみならず、市内の高校生や県内外の大学、専門学校、そして一般家庭への周知をお願いしたい。

<事務局>

・介護職に限らず昨年度の本補助制度の申請者が少なかったことから、今年度から対象者の要件を緩和して、年齢の引き上げと、大学等の卒業後に市内の事業所に就業している方を対象としている。また、制度の周知については、今年度、市内の高校へ行き、生徒への周知をお願いしている。引き続き、介護職のみならず、様々な業種の方に利用していただけるように制度を考えていきたい。

（2）人材確保に向けた補助制度について

<委員>

・介護、看護職員として介護事業所に就職した場合に、3年間ぐらい就業補助金として給与の上乗せがあるといい。夜勤があるなど、仕事に対してきついイメージがあるので、それに見合う対価が必要である。

・就職祝い金であったり、勤続の節目で、5年や10年とかで祝い金があると、離職防止にも繋がるのではないかと。また、他市でも実施されているような、市内で使える商品券や温泉施設の利用券の配布でも市内消費に繋がると思う。

・各種資格の受講料や更新時の研修費用を自己負担している場合が多いので、受講料に対する補助があると大変助かる。例えば、ケアマネージャーという資格を持っている方の中には、更新費用の負担があり、その費用を負担してくれる事業所もあるが、その更新費用があるため資格を失効している方もおり、介護支援専門員自体が不足しているという状況にも繋がっている。

・介護分野での地域おこし協力隊の活用を検討して欲しい。

・人材確保について、将来的に人口が減ることで、介護分野だけではなく、他の職種との取り合いになるため、子育て世代や若い人たちが定着するように、学校の給食費や保育料の減免など、そういうことも視野に入れて欲しい。

・長門市で働き、長門市に定住した場合には、奨学金の返済が免除となるような、定住を前提とした奨学金があれば、いろんな分野で若い人が集まるのではないかと。

・福祉医療の学生を対象に、在学時から市独自の奨学金を付与し、卒業後に長門市で働いてもらえたら返済不要とする奨学金があれば、卒業予定者の学生を待つよりも、早期から新卒の若い人材を確保することができるのではないかな。

・人材不足の解消に、県外から長門市に来てくれるような支援として、長門市の空き家バンクを利用して、介護職に就いて何年住んだら空き家をあげますよとかいいのではないかな。

<事務局>

・人材確保に向けた補助制度について、本日、色々と貴重なご意見をいただいたので、今後の補助制度の検討にあたって参考とさせていただきます。

・長門市の空き家状況として、約 1400 件あると言われており、6 件に 1 件が空き家の状況である。市としても空き家を有効活用しながら、ニーズのある人に、マッチングをして、長門に人を呼び込む活動をしている。そうした中で、例えば移住相談者が介護の関係の経験者である方には、介護分野での仕事のマッチングも行っており、仕事の部分は移住を決める要素にもなってくると思うので、引き続き取り組んでいく。

(3) 今後の取組について

<委員>

・市内の取組事例として、平成 28 年に、市内の社会福祉法人が協力して地域の福祉課題解決に取り組むため、長門市社会福祉法人地域公益活動推進協議会を設立している。この協議会では、調査研究、講座開催、安心相談、生活支援事業と 4 つの事業に基づき活動を行っており、イベント、講演会の開催や市内小中学校での福祉教育、粗大ごみの支援サービスなど、地域貢献活動に取り組んでいる。また、人材確保、人材育成にも取り組んでおり、地域の住民に対して福祉、介護の魅力を発信するイベントや応募活動を実施し、協議会チラシを順次配布したり、慢性的な福祉、介護人材不足に対し、長期的な視点での福祉の意識付け、定着、将来的な福祉人材の養成を目的として、学校での福祉体験、車いすや高齢者疑似体験等を実施している。

・職業安定所の取組としては、毎月、山口県人材センターとの共催で福祉の仕事相談会を開催し、ハローワークの会議室で、介護系の事業所からの仕事内容の説明などを行っている。また、11 月 11 日の介護の日の前後に、県内 10 カ所で介護就職デーということで、福祉関係の仕事を希望する方と、人材を求める企業との就職面接会を開催している。

・介護の仕事の PR 活動や福祉の意識付けということで、小中学校への福祉教育を続けていくことが、将来に繋がっていくのではないかな。また、介護の知識が無いまま介護職に就くのは大変であるため、高校生が介護の初任者研修を受講できる環境があったらいいのではないかな。

・最近は、核家族が多いので、お年寄りと触れ合えたりする機会があれば、介護っていうところにも目が行くと思う。例えば、放課後デイや施設で触れ合いの時間が取り、お年寄りが集まるサロンに子供たちが行くとか、普段分かれてるところが一緒に行動し、触れ合える場があるといいと思っている。

・最近の市内の学校の就職先状況等について、学校に聞いてみる必要があるのではないかな。

・人材確保の取組については、他市でも取り組んでいると思うので、他市での取組内容を実際に聞いてみて、この会議としてサポートして、後押しできるような具体的な内容を考えてはどうだろうか。

＜事務局＞

・市役所自体も人材確保に苦慮してる状態で、特に資格職である保健師や看護師、社会福祉士等の確保に困っている。今のような職種は、介護の現場でも必要とされる人材であって、まさに本市も同じ状態であり、介護の職場や介護の仕事がどんなに大事なのかアピール不足ではないかと感じている。例えば、ほっちゃんテレビで介護職を紹介するなど、そういった取組を考えていきたい。